

2023年6月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年2月3日

上場会社名 アクモス株式会社
 コード番号 6888 URL <https://www.acmos.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 飯島 秀幸
 問合せ先責任者 (役職名) 経営企画管理部長 (氏名) 末國 真一
 四半期報告書提出予定日 2023年2月14日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 03-5217-3121

(百万円未満切捨て)

1. 2023年6月期第2四半期の連結業績(2022年7月1日～2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年6月期第2四半期	2,541	28.7	218	191.5	225	197.9	138	314.4
2022年6月期第2四半期	1,975	3.1	74	41.3	75	41.1	33	67.0

(注) 包括利益 2023年6月期第2四半期 142百万円 (399.3%) 2022年6月期第2四半期 28百万円 (72.7%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年6月期第2四半期	14.18	
2022年6月期第2四半期	3.43	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年6月期第2四半期	4,343	2,796	58.8
2022年6月期	4,593	2,796	55.6

(参考) 自己資本 2023年6月期第2四半期 2,555百万円 2022年6月期 2,554百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年6月期		0.00		13.00	13.00
2023年6月期		0.00			
2023年6月期(予想)				12.00	12.00

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無
 2. 2022年6月期の期末配当には記念配当2円00銭(上場25周年記念)が含まれております。

3. 2023年6月期の連結業績予想(2022年7月1日～2023年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,700	23.5	570	20.6	560	18.0	365	20.2	37.31

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年6月期2Q	10,215,400 株	2022年6月期	10,215,400 株
期末自己株式数	2023年6月期2Q	425,343 株	2022年6月期	439,343 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年6月期2Q	9,778,415 株	2022年6月期2Q	9,756,932 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(追加情報)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(自2022年7月1日至2022年12月31日、以下「当四半期」という。)におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響は残るものの、ウイズコロナの生活様式への切り替えが進み、経済活動も緩やかに回復傾向がみられますが、世界的な物価上昇や金融引き締めの影響により、先行き不透明な状況が続いております。

当社グループの事業を取り巻く環境は、デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進により、国、地方公共団体及び民間ではシステム更新や新サービス創出のための基盤構築などの取り組みが進められております。政府の方針としてもマイナンバーの普及などの行政のデジタル化推進や、サイバーセキュリティ戦略、教育、医療、防災等のDXが重点方針として掲げられており、IT分野の拡大が期待できます。一方で慢性的なIT人財の不足が続いており、IT人財の確保と育成が重要課題となっております。

当期からの中期経営計画Ⅲ(2022年7月～2025年6月)の開始に当たり制定いたしました「社は」である”挑戦する心”のもと、「進化」をテーマとし、Business(事業)、Members(人財)、Value(付加価値)3つの分野でGoodに挑戦し、外部環境に左右されない成長企業への進化を目指します。成長領域の軸をセキュリティからクラウドに拡大し、お客様のニーズに対応する最適なICTサービスを提供してまいります。

当四半期の売上高は2,541百万円(前四半期は売上高1,975百万円、前四半期比28.7%増)、営業利益は218百万円(前四半期は営業利益74百万円、前四半期比191.5%増)、経常利益225百万円(前四半期は経常利益75百万円、前四半期比197.9%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は138百万円(前四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益33百万円、前四半期比314.4%増)となりました。当四半期の連結業績には、前期末に連結子会社となった株式会社フィールドワンの損益が加わっております。なお、株式会社フィールドワンの決算日は3月末日であるため、当四半期は株式会社フィールドワンの第2四半期(自2022年4月1日至2022年9月30日)の財務諸表を使用し、決算日が異なることから生じる差異については必要な調整を行っております。

各セグメント別の状況は以下のとおりです。なお、当期より報告セグメントを「ITソリューション」、「ITインフラ」及び「ITサービス」の3区分に変更しております。変更の内容は以下の表のとおりです。

当期からの区分	主な事業内容	前期までの区分
ITソリューション	SI・ソフトウェア開発、 消防防災ソリューション、GISソリューション	ITソリューション
ITインフラ	IT基盤・ネットワーク構築、 クラウド関連サービス	
ITサービス	第三者保守サービス、病院情報システム維持管理、 サーベイ・アンケート、ビジネスプロセスアウトソーシング(BPO)	ITサービス

(注) 1. 前第2四半期連結累計期間(自2021年7月1日至2021年12月31日)は「前四半期」と記載しています。以下同じ。

2. 以下の各セグメントの文中における前四半期の実績値は、変更後のセグメント区分により組み替えた後の数値となっております。記載箇所には※を付しております。

(ITソリューション)

当四半期では、官公庁のシステム開発に関するソリューション案件が完了したことや、民間企業からの開発などスポット案件の受注もあり、SI・ソフトウェア開発の受注は堅調に推移しました。GISソリューションの売上高は第3四半期に偏重する傾向にありますが、当四半期は前四半期を上回っており、第4四半期以降に売上計上予定の官公庁の入札案件も落札いたしました。当四半期の売上高は1,310百万円(※前四半期は売上高1,224百万円、前四半期比7.0%増)、営業利益は65百万円(※前四半期は営業利益1百万円)となりました。

(ITインフラ)

当四半期では、官公庁のクラウドを活用したネットワーク構築案件が順調に完了し、構築、運用案件を中心とした受注も堅調に推移しました。当四半期の売上高は389百万円(※前四半期は売上高356百万円、前四半期比9.3%増)、営業利益は59百万円(※前四半期は営業利益45百万円、前四半期比30.3%増)となりました。

当社のSaaS製品群(注)については、販売パートナーの自社媒体でのご紹介やWEB媒体へのご掲載をいただいているほか、展示会への出展を行うなど販売活動に注力しており、販売パートナー経由での売上が増加しております。

(注)当社SaaS製品群

- ・ 標的型攻撃メール訓練ソリューション製品
「SYMPROBUS Targeted Mail Training」
「SYMPROBUS CoTra Enterprise」
- ・ 添付ファイル分離メールゲートウェイソリューション
「SYMPROBUS File Atcala」

(ITサービス)

前期末に連結子会社となった第三者保守サービスを提供する株式会社フィールドワンの業績が加わっております。第三者保守サービスでは、保守・レンタルが堅調であったほか、販売・修理でシステムの販売もあり、業績は順調に推移しました。病院情報システム維持管理の業績も概ね計画どおりの進捗となりました。サーベイ・アンケート、BPO(注)ではWEB広告やSEOを活用したプロモーション展開のほか、販売パートナーとの連携を強化し、売上高・営業利益とも前四半期を上回り業績は回復基調となっております。ITサービスの当四半期の売上高は841百万円(※前四半期は売上高405百万円、前四半期比107.9%増)、営業利益は119百万円(※前四半期は営業利益50百万円、前四半期比137.8%増)となりました。

(注) BPO : ビジネスプロセスアウトソーシング

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当四半期末の総資産は前連結会計年度末から250百万円減少し4,343百万円となりました。これは主に、現金及び預金の減少472百万円の方、仕掛品の増加185百万円、敷金の増加39百万円があったことによるものです。なお、敷金の増加については、当社本社事務所の移転を2023年4月下旬に予定しており、その契約にあたり支払いを行ったものです。

(負債)

当四半期末の負債は前連結会計年度末から249百万円減少し1,546百万円となりました。これは主に、短期借入金の増加50百万円、賞与引当金の増加35百万円の方、未払費用の減少249百万円、未払法人税等の減少51百万円があったことによるものです。

(純資産)

当四半期末の純資産は前連結会計年度末から変わらず2,796百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益138百万円、配当金の支払い127百万円によるものです。

②キャッシュ・フローの状況

当四半期末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末から467百万円減少し、2,253百万円となりました。各キャッシュ・フローの区分の状況とその要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは257百万円の支出(前四半期は501百万円の支出)となりました。これは主に、棚卸資産の増加203百万円、法人税等の支払額119百万円、未払費用等その他負債の減少247百万円があった一方、税金等調整前当期純利益225百万円、賞与引当金の増加35百万円、非資金項目である減価償却費20百万円があったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは81百万円の支出(前四半期は17百万円の支出)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出13百万円、無形固定資産の取得による支出34百万円、敷金の差入による支出39百万円によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは127百万円の支出(前四半期は47百万円の支出)となりました。これは主に、短期借入金の純増額50百万円、長期借入金の返済による支出31百万円、配当金の支払額125百万円があったことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想については、概ね想定どおりに推移していることから、2022年8月3日付の「2022年6月期決算短信」にて公表いたしました2023年6月期の業績予想に変更はありません。

なお、業績予想は、入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,828,989	2,356,933
受取手形及び売掛金	751,781	747,762
商品	349,243	367,098
仕掛品	49,392	234,931
その他	81,474	64,904
貸倒引当金	△825	△825
流動資産合計	4,060,056	3,770,805
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	268,653	269,178
減価償却累計額	△176,870	△180,938
建物及び構築物（純額）	91,783	88,240
工具、器具及び備品	212,678	217,326
減価償却累計額	△181,623	△181,955
工具、器具及び備品（純額）	31,055	35,371
土地	68,836	68,836
有形固定資産合計	191,674	192,448
無形固定資産		
のれん	20,453	17,614
ソフトウェア	34,827	43,240
その他	3,200	19,878
無形固定資産合計	58,481	80,733
投資その他の資産		
投資有価証券	26,608	31,604
繰延税金資産	101,124	82,530
その他	155,779	185,487
投資その他の資産合計	283,512	299,622
固定資産合計	533,668	572,804
資産合計	4,593,725	4,343,609

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	192,616	186,638
短期借入金	135,000	185,000
1年内返済予定の長期借入金	62,400	62,400
未払金	185,234	167,450
未払費用	400,977	151,866
未払法人税等	134,291	82,856
賞与引当金	37,144	72,830
その他	170,826	192,932
流動負債合計	1,318,490	1,101,974
固定負債		
長期借入金	437,600	406,400
その他	40,671	38,606
固定負債合計	478,271	445,006
負債合計	1,796,762	1,546,981
純資産の部		
株主資本		
資本金	693,250	693,250
資本剰余金	1,208,265	1,196,258
利益剰余金	699,211	710,787
自己株式	△45,827	△44,367
株主資本合計	2,554,899	2,555,929
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△251	△26
その他の包括利益累計額合計	△251	△26
非支配株主持分	242,314	240,725
純資産合計	2,796,963	2,796,627
負債純資産合計	4,593,725	4,343,609

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)
売上高	1,975,088	2,541,058
売上原価	1,297,521	1,597,645
売上総利益	677,567	943,412
販売費及び一般管理費	602,653	725,021
営業利益	74,913	218,391
営業外収益		
受取利息及び配当金	647	133
保険解約返戻金	—	8,803
その他	1,266	2,120
営業外収益合計	1,914	11,057
営業外費用		
支払利息	570	3,094
その他	532	774
営業外費用合計	1,103	3,869
経常利益	75,724	225,578
特別損失		
固定資産除却損	—	147
事務所移転費用	1,266	—
特別損失合計	1,266	147
税金等調整前四半期純利益	74,458	225,431
法人税、住民税及び事業税	42,551	65,068
法人税等調整額	2,525	18,494
法人税等合計	45,077	83,562
四半期純利益	29,380	141,868
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△4,084	3,204
親会社株主に帰属する四半期純利益	33,465	138,664

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	29,380	141,868
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△921	224
その他の包括利益合計	△921	224
四半期包括利益	28,459	142,092
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	32,543	138,888
非支配株主に係る四半期包括利益	△4,084	3,204

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	74,458	225,431
減価償却費	20,470	20,325
のれん償却額	1,999	2,839
株式報酬費用	9,131	5,054
賞与引当金の増減額 (△は減少)	57,578	35,685
受注損失引当金の増減額 (△は減少)	2,385	—
受取利息及び受取配当金	△647	△133
支払利息	570	3,094
固定資産除却損	—	147
売上債権の増減額 (△は増加)	46,232	13,875
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△379,197	△203,262
仕入債務の増減額 (△は減少)	54,177	△6,027
その他	△306,533	△247,473
小計	△419,374	△150,442
利息及び配当金の受取額	647	100
利息の支払額	△496	△2,957
法人税等の支払額	△93,269	△119,173
法人税等の還付額	10,872	14,665
営業活動によるキャッシュ・フロー	△501,619	△257,807
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額 (△は増加)	4,800	4,800
有形固定資産の取得による支出	△3,526	△13,156
無形固定資産の取得による支出	△13,688	△34,144
敷金及び保証金の差入による支出	△5,885	△39,637
その他	462	213
投資活動によるキャッシュ・フロー	△17,838	△81,924
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	70,000	50,000
長期借入金の返済による支出	△8,560	△31,200
配当金の支払額	△106,023	△125,931
子会社の自己株式の取得による支出	—	△19,500
その他	△2,698	△893
財務活動によるキャッシュ・フロー	△47,281	△127,524
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△566,739	△467,255
現金及び現金同等物の期首残高	2,300,999	2,720,572
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,734,260	2,253,316

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱いの適用)

当社及び一部の連結子会社は、第1四半期連結会計期間から、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号2021年8月12日。以下「実務対応報告第42号」という。)に従っております。また、実務対応報告第42号第32項(1)に基づき、実務対応報告第42号の適用に伴う会計方針の変更による影響はないものとみなしております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額(注)	合計
	ITソリューション事業	ITインフラ事業	ITサービス事業	計		
売上高						
顧客との契約から生じる収益	1,216,317	353,921	404,849	1,975,088	—	1,975,088
外部顧客への売上高	1,216,317	353,921	404,849	1,975,088	—	1,975,088
セグメント間の内部売上高又は振替高	8,332	2,178	197	10,707	△10,707	—
計	1,224,649	356,099	405,046	1,985,795	△10,707	1,975,088
セグメント利益	1,736	45,426	50,378	97,542	△22,628	74,913

(注) 1 セグメント利益の調整額△22,628千円には、報告セグメントに配分していない全社費用△23,878千円を含んでおります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社本社の上場維持に係る費用等であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額(注)	合計
	ITソリューション事業	ITインフラ事業	ITサービス事業	計		
売上高						
顧客との契約から生じる収益	1,309,805	389,374	841,878	2,541,058	—	2,541,058
外部顧客への売上高	1,309,805	389,374	841,878	2,541,058	—	2,541,058
セグメント間の内部売上高又は振替高	321	—	99	420	△420	—
計	1,310,126	389,374	841,977	2,541,478	△420	2,541,058
セグメント利益	65,289	59,212	119,785	244,287	△25,896	218,391

(注) 1 セグメント利益の調整額△25,896千円には、報告セグメントに配分していない全社費用△25,883千円を含んでおります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社本社の上場維持に係る費用等でありませ

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

2022年6月30日に株式会社フィールドワンを連結子会社としたことに加え、中期経営計画Ⅲでは事業種類ごとの収益性、成長性に基づき更なる成長を実現するため、事業のサービス別のセグメントを経営資源の配分や業績評価の観点から見直しを行った結果、当期よりセグメントを「ITソリューション」、「ITインフラ」及び「ITサービス」の3区分に変更しております。変更前のITソリューションから、IT基盤・ネットワーク構築分野を分離し、ITインフラといたしました。また、アクモスメディカルズ株式会社は従来、ITソリューション事業に区分しておりましたが、事業譲渡による事業内容の変更に伴いITサービスに区分いたしました。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第2四半期連結累計期間の区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。